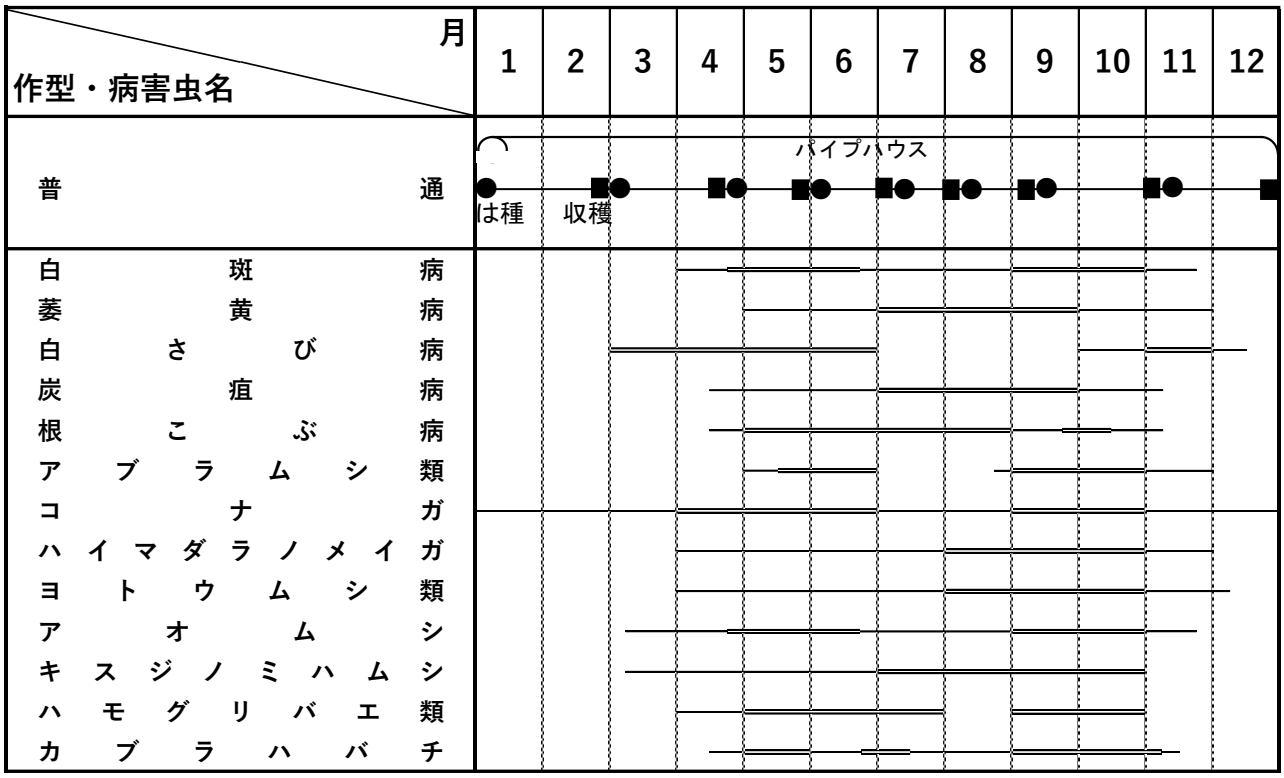
チンゲンサイ

「チンゲンサイ」には、「チンゲンサイ」「非結球あぶらな科葉菜類」「葉菜類」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。（非結球あぶらな科葉菜類の項目参照）



白斑病

留意事項

1 降雨が多い秋期に発生が多い。

防除方法

1 密植を避け、通風をよくする。
2 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ベンレート水和剤 ＜１＞【4000倍　7日／1回】

萎黄病

留意事項

1 病原菌は根に侵入し、道管に沿って下から移動するため、葉の黄化も下から進行する。
2 株元を切断すると、維管束が変色していることがある。
3 根傷みによって発生が助長される。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 あぶらな科野菜の連作を避ける。

2 排水を良好にする。

3 下記の薬剤で土壌消毒を行う。

・キルパー ＜－＞

【原液として60L／10a　所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する
は種または定植10日前／1回】

4 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

白さび病

留意事項

1 比較的涼しく、湿度が高い時に発生が多い。

2 QoI剤≪１１≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

3 ユニフォーム粒剤とリドミル粒剤2に含まれる成分メタラキシル及びメタラキシルMの総使用回数は2回以内(種子への処理は1回以内、土壌混和は1回以内)。

4 ユニフォーム粒剤とアミスター20フロアブルに含まれる成分アゾキシストロビンの総使用回数は3回以内（粒剤は1回以内、水和剤は2回以内)。

防除方法

1 あぶらな科野菜の連作を避ける。

2 密植を避け、通風をよくする。

3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

4 下記の薬剤を施用する。

・ユニフォーム粒剤 ＜４＞ ≪１１≫【9kg／10a　全面土壌混和　定植前／1回】

・リドミル粒剤2 ＜４＞【9kg／10a　全面土壌混和　は種時または定植時／1回】

5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・アミスター20フロアブル ≪１１≫【2000倍　7日／2回】

炭疽病（たんそびょう）

留意事項

1 降雨が多く、気温が高い時期に発生が多い。

2 進展がきわめて速いため、発生初期の抜き取りが重要である。

防除方法

1 わら、またはポリフィルムなどでマルチングする。

2 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ベンレート水和剤 ＜１＞【4000倍　7日／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

根こぶ病

留意事項

1 日長時間が長い時に発生しやすい。
2 酸性土壌で排水不良のほ場に発生が多い。

防除方法

1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
2 排水を良好にする。
3 石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。
4 下記の薬剤で土壌消毒を行う。
（ⅩⅢ土壌消毒　2土壌病害虫等を対象とした薬剤による土壌消毒（4）　参照）
・バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤 劇 ＜－＞
【30kg／10a　は種または定植21日前／1回】
5 は種前に下記の薬剤を施用する。
・ネビリュウ ＜３６＞
【20kg／10a　は種または定植前／1回　作条土壌混和】または
【20～30kg／10a　は種または定植前／1回　全面土壌混和】
6 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

アブラムシ類

留意事項

1 ウイルス病を媒介する。
2 少雨のときに多発しやすい。
3 ジェイエース粒剤とスミフェート粒剤に含まれる成分アセフェートの総使用回数は1回以内。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により、被害軽減に努める。
2 は種時～定植時に下記の薬剤を施用する。
・モスピラン粒剤 ＜４Ａ＞
【0.5g／株　株元散布　定植前日～定植当日／1回】または
【3kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
・ジェイエース粒剤 ＜１Ｂ＞【3～6kg／10a　作条散布後土壌混和　定植時／1回】
・スミフェート粒剤 ＜１Ｂ＞【3～6kg／10a　作条散布後土壌混和　定植時／1回】
・スタークル粒剤、アルバリン粒剤 ＜４Ａ＞
【6kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
3 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
・アクタラ顆粒水溶剤 ＜４Ａ＞【2000倍　3日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・ダントツ水溶剤　＜４Ａ＞【2000～4000倍　7日／3回】
・ランネート45DF　劇　＜１Ａ＞【1000倍　14日／2回】

コナガ

留意事項

1 葉裏に網のような繭をつくって蛹になる。
2 春～初夏、秋の発生が多い。
3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 は種時～定植時に下記の薬剤を使用する。
・モスピラン粒剤　＜４Ａ＞
【0.5g／株　株元散布　定植前日～定植当日／1回】または
【3kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・アファーム乳剤　＜６＞【1000～2000倍　3日／3回】
・ディアナSC　＜５＞【2500～5000倍　前日／2回】
・コテツフロアブル　劇　＜１３＞【2000倍　7日／1回】
・パダンSG水溶剤　劇　＜１４＞【1500倍　7日／3回】
・ＢＴ剤　＜１１Ａ＞（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

ハイマダラノメイガ

留意事項

1 夏期が高温少雨で、残暑のきびしい年に多発しやすい。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ディアナSC　＜５＞【2500～5000倍　前日／2回】
・ＢＴ剤　＜１１Ａ＞（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

ヨトウムシ類

留意事項

1 夏～秋期に高温乾燥する年に大発生する傾向がある。
2 若齢幼虫の防除に重点を置く。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法
1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ディアナSC ＜５＞【ハスモンヨトウ、ヨトウムシ　2500～5000倍　前日／2回】
・スカウトフロアブル 劇 ＜３Ａ＞【ヨトウムシ　2000倍　7日／2回】
・アクセルフロアブル ＜２２Ｂ＞
【非結球あぶらな科葉菜類　ハスモンヨトウ　2000倍　前日／3回】
・ＢＴ剤 ＜１１Ａ＞（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

アオムシ

留意事項
1 幼虫による被害は春と秋に多い。
2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
3 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法
1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
3 定植前日～当日に下記の薬剤を施用する。
・モスピラン粒剤 ＜４Ａ＞【0.5g／株　株元散布　定植前日～定植当日／1回】
4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・アファーム乳剤 ＜６＞【1000～2000倍　3日／3回】
・ディアナSC ＜５＞【2500～5000倍　前日／2回】
・ＢＴ剤 ＜１１Ａ＞（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

キスジノミハムシ

留意事項
1 高温乾燥が続くと発生が多くなる。

防除方法
1 シルバーマルチを利用する。
2 は種時～定植時に下記の薬剤を施用する。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・スタークル粒剤、アルバリン粒剤 ＜４Ａ＞
【6kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】または
【6kg／10a　土壌混和　定植時／1回】
・モスピラン粒剤 ＜４Ａ＞ 【0.5g／株　株元散布　定植当日／1回】
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ＜４Ａ＞ 【2000倍　3日／2回】
・パダンSG水溶剤 劇 ＜１４＞ 【1500倍　7日／3回】

ハモグリバエ類

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 定植時に下記の薬剤を施用する。
・アクタラ粒剤5 ＜４Ａ＞【6kg／10a　作条混和　定植時／1回】
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ディアナSC ＜５＞【2500～5000倍　前日／2回】
・トリガード液剤 ＜１７＞【1000倍　7日／2回】
・パダンSG水溶剤 劇 ＜１４＞【1500倍　7日／3回】

カブラハバチ

防除方法

1 密植を避け、通風をよくする。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【4000倍　7日／1回】
・スカウトフロアブル 劇 ＜３Ａ＞【2000倍　7日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。